

文教厚生常任委員会報告

平成 29 年 11 月 30 日

委員長 吉住長敏

文教厚生常任委員会に議会閉会中の調査事項として付託を受けておりました事項について、調査の概要を報告いたします。調査に際しましては、平成 29 年 10 月 27 日保健福祉部、10 月 31 日に教育部に対し関係部課係長等に出席を求め委員会を開催いたしました。

保健福祉部

隣保館 (45 分)

隣保館係から、平成 29 年度地域交流促進事業、就労サポート講座事業、地域人権福祉教室事業、スタンドアロン支援事業の進捗状況の概要説明。

委員から、就労サポート講座事業について、4 クール目の中止の問いに、応募がなかった。就労につなぐ短期設定であったが今後検討していきたい。シングルマザーの参加はの問いに、次回答えたい。スタンドアロンについて、参加者数の減の問いに、交流館やそれ以外にも勉強の場が増えたことも考えられる。教育部との連携の問いに、児童センター、児童館での居場所提供の学習支援に対して、スタンドアロン支援事業は募集制の形式で、指導員も多く、これらを同一にするのは難しい。成果の問いに、学習に向かう姿勢意欲が出てきたとの学校側からの評価がある。

予防健診課 (58 分)

健診指導係から、特定健診の今年度の取り組み、平成 28 年度受診率は 31% を超える見込みであること、あわせてがん検診の受診状況及び 20 歳への胃がんリスク検診に関して、健康づくり係から、ヘルス・ステーション事業の設置状況、第 2 次健康増進計画及び食育推進計画での基本理念や健康チャレンジ 10 か条の展開等について概要説明。

委員から、受診勧奨内容の問いに、過去に集団健診を受けた方、がん検診のみを受けた方は特定健診を奨める。受診率目標未達成にペナルティがある制度の問いに、現在は、保険者努力支援制度として、受診率向上など一定の取り組み結果等に対し交付金として配分される制度が創設された。平成 28 年度は約 710 万円の実績。健康チャレンジ 10 か条の市民への普及の問いに、「たべる、うごく、まもる、たのしむ」の 4 つの柱をもとにワーキンググループなどで広めたい。食育で大事な妊娠期から青少年期の世代の参画の問いに、団塊ジュニアが全て 65 歳以上になる 2042 年等、その先の現実を見据え、若い方の 10 か条も実践していきたい。SNS による食育推進計画の問いに、実践につながる今の時代に沿う情報発信を検討していく。ヘルス・ステーションの支援体制の問いに、町川原 1 区において、介護支援課と連携し地域リハビリテーション事業のサポートに入っている事例紹介。子どもの健康についての他課との連携の問いに、庁内の元気な人づくり検討委員会や 5 者会議で対応している。議会、まちづくり、防災と同様に健康の位置づけで基本条例制定の必要性が迫っているのではの問いに、計画を策定中という段階であり、現在のところそこまでには至っていない。

介護支援課（46分）

介護予防係から、地域支え合いネットワーク通信、介護支援課所管施設の整備状況、包括支援センター係「寄って館」から、今年度事業の状況、介護予防・日常生活支援総合事業の利用状況、認知症ケアパス、介護保険係から、介護保険サービスの利用状況及び介護保険運営協議会に関連する進捗状況に関して説明。

委員から、認知症ケアパスの配布資料の活用の問いに、来年度製本化で職員研修、民生委員、福祉委員等にダイジェスト版を普及。ホームページでもアップしたい。徘徊高齢者捜してメールの啓発内容の周知の問いに、内部で検討したい。老老介護など介護支援の支援者対応の問いに、住み慣れた地域でともに支え合い、最後まで安心して暮らせるまちづくりを次回の介護保険事業計画の理念にしたい考え。また「ゆい」に男性が集まれるよう取り組みたい。病院区の地域密着型施設の進捗の問いに、すでに運営協議会で指定候補者事業所を決定し財務支局へ進達。支局は現在地の解体工事を準備中であり30年度末の開所で進めたい。

子育て支援課（56分）

こども係から、保育所入所、病児・病後児保育事業の利用状況、保育料算定にかかる経過措置の適用、家庭支援係から、つどいの広場活動状況、こども発達ルーム、家庭支援係の相談件数、子どもの実態調査について、その他として花見光保育園の増改築で12月議会で補正予算提案についての説明。

委員から、待機児童の問いに、11月入所段階でゼロ。病児保育の疾病内容の問いに、1番は上気道炎、2番は感冒。保育料経過措置対象の問いに、9月末時点で442人が対象で、12月末に見込み額を事前周知予定。ひかりマザーズルームとの連携の問いに、特段やっていない。こども発達ルームの発達支援センター化及び子育て世代包括支援センターへの考えの問いに、国からも平成32年度までの発達支援センター設置は努力義務となっており、現在検討中。妊娠期から就学前まで一連の相談等を含めた子育て世代包括支援センター化も検討中。子どもの実態調査で貧困度の調査の問いに、保護者分に収入を問う設問があるのではっきり出るかと思うとのこと。

福祉課（41分）

福祉政策係から、第31回健康福祉まつり開催、障害者福祉係から、障がい者就労等支援状況、保護係から、生活保護の現況、生活再生支援係から、生活困窮者自立相談支援事業に関して、その他として福祉課長から、子どもの貧困対策の関係会議の進捗報告。

委員から、来場者のカウントの仕方の問いに、ポイントラリーで配布した水色印刷の枚数。来場者の周辺路上駐車が見られたとの指摘に、サンコスモ古賀が満杯時はシャトルバスでの来場を案内したが、来年度以降の課題とする。障害者手帳保持者の就労率の問いに、その数字はない。障がい者同士の居場所の問いに、咲の多目的スペースがある。生活保護者の自立支援の状況の問いに、就労については今年度20人程を支援し、金銭管理については社会福祉協議会の制度の提案、扶養義務者等があたる。民生・児童委員のフォローの問いに、校区別にケース検討会議等開催している。保護世帯に高齢者が半数を占める原因はの問いに、正確な分析ではないが核家族化と子ども自身が自分の家族で経済的に精一杯で援助ができないと推察される。困窮者自立支援の年代分布の問いに、40代が8人、約29%。次いで30代が6人、約21%等。ケースワーカーの保護世帯の

受け持ち数の問いに、6人で1人当たり83世帯。外国人保護世帯の問いに、10人程度、生活再生支援対象で1人ある。

教育部

教育総務課（28分）

施設管理係から、平成29年度学校施設設備の主たる工事の進捗状況について概要説明。

委員から、防火シャッター管理の視点の問いに、消防用設備で年2回の点検をし、適宜消防署に報告。エレベーター更新計画の問いに、花鶴小学校は老朽化に伴い人荷用に改修。ほかは20年強の大規模改修で切り替え計画。未設置3校は今後、長寿命化計画の中で検討する。校内の樹木の点検の問いに、各学校の対応となるが、高木作業、卒入学式前の樹形整枝等の作業は教育総務課で実施。古賀東小学校の蜂による被害の問いに、その報告はない。交通量の多い花見小学校の通学路の見直しの問いに、通学路交通安全プログラムで取り組みを進めているが、横断歩道設置の件は粕屋署との協議で対応したい。オープン教室以外の間仕切り計画の問いに、花見小学校の設置がない教室を継続し、ほかに舞の里小学校がある。小野小学校のセンダンの木を残すべきとの指摘に、老木で再生困難だった。トイレ改修の進捗状況に問いに、洋式化、床の乾式化は長寿命化計画の中で計画的に整備していきたい。

学校教育課（55分）

学校教育課長から、小中学校の不登校児童生徒数、平成29年度全国学力・学習状況調査の結果と分析、中体連等夏季大会結果、中学校2年生職業体験学習「ドリームステージ」及び小学校5年生接遇マナー研修、青少年総合センターの今年度中の閉所に伴う適応指導教室「あすなろ」の移転先を旧弁護士相談センターとする説明。

委員から、夏休み後の不登校の状況の問いに、例年と同様の傾向で校内の生徒指導委員会を中心に対応。全国学力・学習状況調査で自尊感情が高いことの分析の問いに、一つは総合的な学習の時間を各学校が大事に取り組んでいる背景がある。中学校部活の外部指導者の配置の問いに、3中学校各4人を配置。文化系の部活は種類が少ないとの指摘に、各学校長の考えもあるが、その声は伝えたい。PTCAの各学校の実情はの問いに、昨年からの2、3年で規約等を整備するよう指導している。更に家庭、地域、学校の連携強化を図りたい。いじめの把握と認知件数の問いに、県のいじめ防止基本方針策定等により認知件数が増えた経緯がある。月例報告の際に認知件数を把握し、いじめの未然防止にも努めている。9月現在で、からかいやけんかも含め68件となっている。「あすなろ」移転の視点はこの問いに、通いやすい立地条件、学びやすい環境、通う子どもへの配慮等、総合的な検討結果による。バス停は近くにあるかの問いに、花鶴丘3丁目バス停が近い。学童保育の資料が無い理由の指摘に、現在は問題もなく待機児童もないため差し控えた。通級指導の小中学校の連携の問いに、特別支援教育を推進する教員間でケース会議等を充実させる方向で対応している。就学前から小学校への移行支援がスムーズにできるよう保健福祉部と取り組んでいる。教職員の働き方改革で外部の力を導入の問いに、教職員一人ひとりの出退勤時刻を本人だけでなく管理職も把握し、1人に職務が集中しないよう校務分掌等の見直しで乗り切りたい。外部の力は大事で、子どもをより多くの目で見ることもつながる。

文化課（1時間 13分）

文化課長から冒頭、今年度から図書館協議会の協議による図書館要覧と文化芸術審議会
の協議による歴史資料館要覧は別々の作成となった旨、文化財係から、船原古墳関係
事業の進捗、市内開発に伴う小竹七俵遺跡、井手流遺跡の発掘調査に関して、文化振興
係、図書館係、市史編さん準備係から、今年度事業報告と事業予定について参考資料に
よる詳しい説明。

委員から、船原古墳広場整備の谷山地元説明で出された意見はの問いに、船原の名称、
照明やトイレの尋ねがあり、今回は中間的な整備でありトイレは今後の意見収集の中で
検討したい。小竹発掘調査で都市計画課との連携は問題なかったかの指摘に、周辺周知
は委託業者が担うが、今回なされていなかった。連絡と連携不足によるもので今後十分
気をつけたい。また、開発指導要綱関係課協議の際に具体的な周知方法等を徹底したい。
文化芸術の振興の取り組みの問いに、アート・バス、レッツトライ！プロジェクトを実
施。市内4箇所壁画塗り替えも間接的に関わった。同事業は企業や個人寄附金、県の
補助金も受けられているとのこと。児童画展の取り組みの経緯の問いに、文化芸術審議
会も課題としており展示会より絵を画く力の低下が懸念される意見がある。MOA美術
館と子ども美術展の統合を協議したが不調で、子ども美術展は廃止。子どもの絵を画く
力を伸ばす取り組みで今後は古賀競成館高校ベーシックデザイン科との関わりを模索
協議中。図書館利用時間の延長の問いに、近隣をみてもその傾向があり、検討する時
期に入ったとの認識はある。文庫本の貸出状況の問いに、今は続けているが、複本を多
量に購入しない等の注意はしている。文化財保存で実際に動いて調査するかつての文
化財調査委員会条例を復活すべきの指摘に、現在の文化財保護審議会は調査委員会の
業務を継承しており、文化財指定など大筋のご意見をいただくところ。公募型補助金
事業の夏休み子ども体験教室の補助金がなくなった経緯の問いに、あくまでも文化協
会の独自事業として3年間補助金申請され期間が終了したもの。

青少年育成課（32分）

青少年育成課長から、通学合宿、寺子屋、夏休み子ども議場見学会、児童館・児童セ
ンター、少年センター、以上の5事業の概要報告及び、関連で古賀市少年指導員の廃止
の詳細説明。

委員から、廃止で指導員側の意見はどうかの問いに、3中学校区中2校区では非行は
把握されていない。成人式当日の対応はの問いに、少年補導員は存続しており、粕屋署
と連携し対応にあたる。米多比児童館の建て替えの問いに、総合的に検討している。少
年指導員の代替措置の問いに、組織としては考えていない。不登校のひきこもりの子
どもの受け入れの場の問いに、ひきこもりの居場所を市でつくるのは難しい。「あすなろ」
での小中学校の不登校対策を通じ学校卒業後のひきこもり減につなぎたい。夏休み子
ども議場見学会の今後の問いに、せんきょ割なども加味した取り組みを考えたい。通学合
宿の増設の考えの問いに、地域に核となる団体等ができていない現状がある。子ども体
験広場の場の確保の問いに、第2庁舎4階教育部フロアに移し、児童センター等を活用
したい。青少年総合センターの廃止について、12月議会に廃止条例を提案予定。

学校給食センター（40分）

学校給食センター係から、平成29年度の給食提供事業及び食育推進事業の報告、食

器破損状況及び地元農産物使用状況について定型的な報告。所長から、古賀、福岡県産みかんは供給自体が少なく、今年度も使用は困難との説明。

委員から、各学校のセンター栄養士の食育指導の現状の問いに、試食会や各学校に月2回出向いている。みかん農家減少はの問いに、粕屋農協からの出荷量減と承っている。パンの持ち帰りはできないかの問いに、今は衛生管理上残ったものは全て処分している。低学年の軽くて質がいい食器の配慮の問いに、食器等回収後はセンターで洗浄等で1時間半かかること、ロボットとの規格合致との関係で対応の検討は難しい。市の食育のセンターの関わりの問いに、安心しておいしく食べられる給食をつくることで取り組む。4年生、2分の1成人式ごろに再度センター見学会の回数を増やしてはの問いに、バス代等の予算が絡むので難しい面はあるが検討。献立表にセンターからの作り手のメッセージを入れてはの問いに、前向きに検討したい。農家への給食応援団等の地産地消をすすめる意識啓発が必要ではの問いに、今後も子どものために協力を願うよう働きかけをしたい。

生涯学習推進課（52分）

社会教育振興係から、平成29年度社会教育振興事業計画、リーパスプラザこが交流館の利用、リーパスプラザこが市民満足度調査、スポーツ振興係から、クロスパルこがの利用、第17回市民ウォーキング、第60回福岡県民体育大会秋季大会結果、第7回市民健康スポーツの日について、公民館係から、平成29年度コスモス市民講座の概要報告。

委員から、交流館をもっと知ってもらい取り組みの問いに、知名度は確かに低いと認識。さらに情報を流していきたい。市民満足度調査で高校生以下まで把握を広げなかったのかの問いに、貸館ベースで考えたが自習室もありもっと下げてもよかったと反省。子どもアンケートは検討したい。喫煙コーナーの場所は改善すべきの指摘に、確かに検討の余地はあると思う。情報発信がまだ不十分ではの指摘に、研究させてほしい。バリアフリー化がまだ不十分の指摘に、ほかからもあり、可能なところから手を付けたい。新たなスポーツ施設ができ、クロスパルこがの利用増に関する手立てはの問いに、料金を下げると最終的には市税の投入という可能性もあり、慎重さが必要。2カ月分の会費が無料のキャンペーンや女性向け運動教室等のコナミスポーツクラブのスキルを生かして乗り越えたい。交流館の窓口業務の委託、公民館事務局の位置見直しの考えの問いに、窓口は、マスタープランにもあるが、まずは現在の利用者の基準等整理している段階。生涯学習推進課もかなり狭くどうすべきかあわせて検討したい。

以上、議会閉会中の調査事項の付託案件について調査の概要報告を終わります。